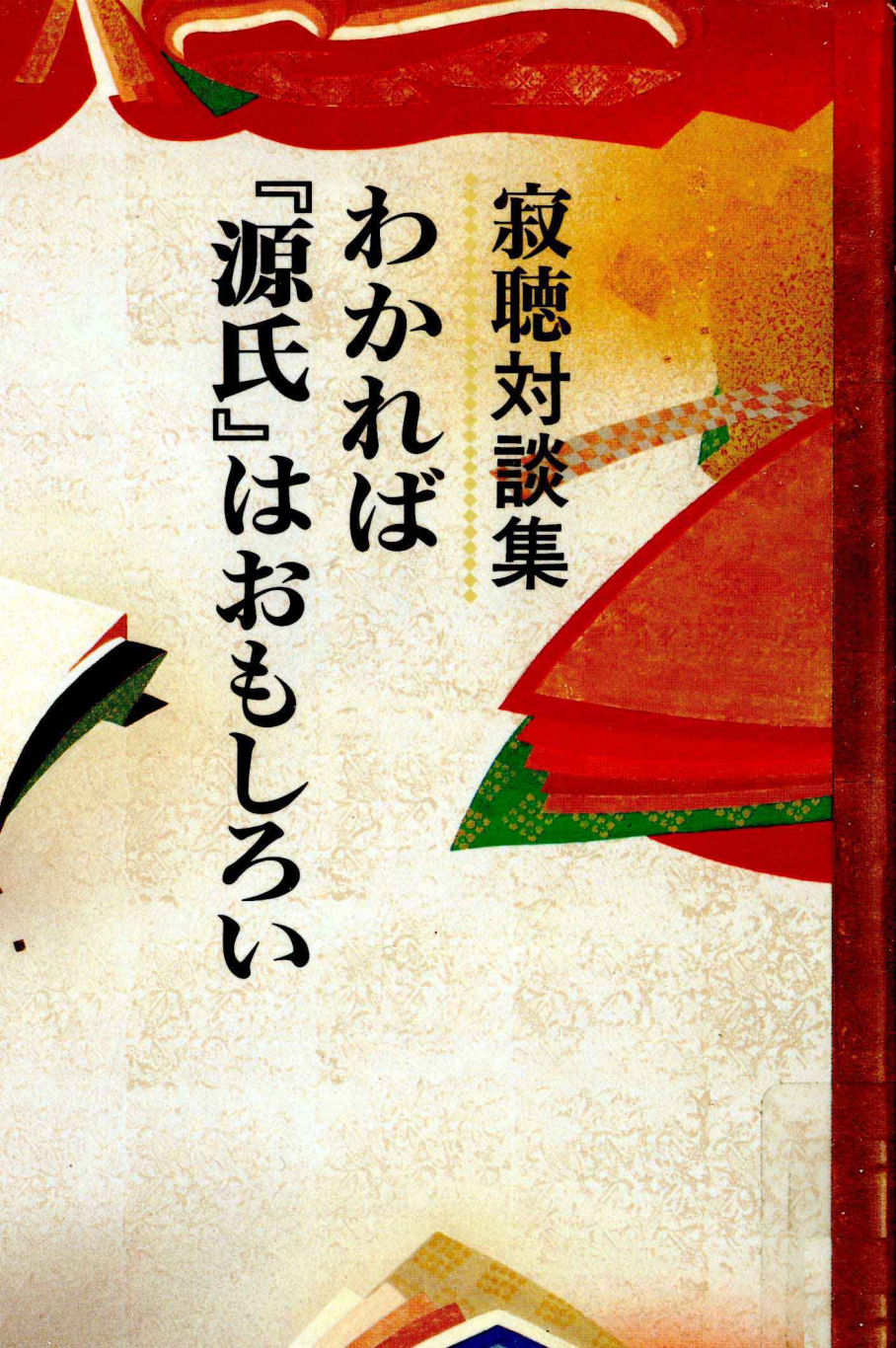


寂聴対談集

わかれば

『源氏』はおもしろい



寂聴対談集



わかれば

『源氏』はおもしろい

寂聴じやくちよう対談集たいだんしゆう

わかれば『源氏』げんじはおもしろい

一九九八年九月二十九日 第一刷発行

一九九八年十二月一日 第二刷発行

著者 瀬戸内寂聴せとうちやくちよう

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社講談社

〒番号 一〇二一八〇〇一 東京都文京区音羽二一〇二二

編集部 東京〇三―五三九五―三五〇〇

電話 販売部 東京〇三―五三九五―三六二二

製作部 東京〇三―五三九五―三六一五

印刷所 本文 豊国印刷株式会社

表紙・カバー 株式会社東京図書館

製本所 株式会社若林製本工場

定価はカバーに表示してあります。

© Jakuchō Setouchi 1998. Printed in Japan



落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部にてお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、文芸局あてにお願いいたします。

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

ISBN4-06-209341-3 (文芸)

N. D. C. 915 235p 20cm

¥500-

寂聴対談集 わかれば『源氏』はおもしろい 目次

千年前の「女」たち——暉峻康隆……………7

二十世紀最後の『源氏物語』訳——永井路子……………29

今読んでも新鮮な魅力——橋本治……………51

恋愛に嫉妬はつきもの——柴門ふみ……………97

源氏、恋のまんだら——馬場あき子……………113

言葉と絵の競艶——石踊達哉……………139

「最古の長編小説」を全人格で読む——丸谷才一……………155

今も昔も恋こそ人生の原動力——俵万智……………165

永遠のラブロマン——林真理子・富田勲・篠田正浩……………179

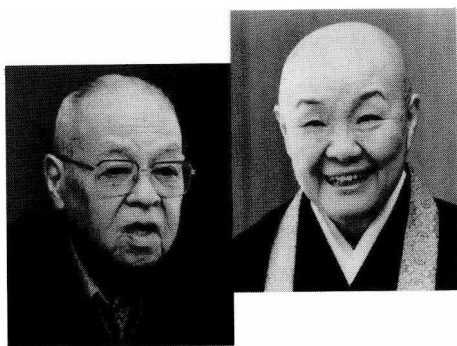
瀬戸内寂聴訳『源氏物語』「玉鬘」の帖より「衣裳配り」
装丁 辻村益朗
装画 石踊達哉

寂聴対談集 わかれば『源氏』はおもしろい

瀬戸内寂聴

千年前の「女」たち

でもおかやしたが
暉峻康隆



写真提供 文藝春秋

「美」がすべてを許した時代

暉峻 瀬戸内さんの『源氏物語』の現代語訳は五年がかりだったそうで、おめでとうございます。

瀬戸内 ありがとうございます。

暉峻 もう原稿は全部で上がったの？

瀬戸内 はい、でき上がりましたけど、やっぱりゲラが出るたびに直しますから、終わるまで気が抜けません。原文の香気を失わないようにしながら、音読してもわかるように苦心したつもりです。

暉峻 瀬戸内寂聴さんのライフワークと言われてる。

瀬戸内 もう、これができたら死んでもいいと思ってたんです。

暉峻 また始まった。そんなこと言って、第二、第三のライフワークをやりますよ、あなたは……。 (笑)

瀬戸内 ありがとうございます。私はもともと先生がご専門の西鶴が好きで、女子大のときは西鶴ばかり読んでたんです。

暉峻 ええ、そうだって。

瀬戸内 『源氏』を今度じっくり訳しまして、やっぱり『源氏』から西鶴に日本の古典文学はずっと脉みやくを引いて来てるというのがわかりましたね。

暉峻 僕はこの頃は江戸文学だけじゃなくて、『記紀』『万葉』から『枕草子』『源氏』とずーっと読んでますからね。

瀬戸内 そうですか。私、先生のお顔が浮かぶと思いますことがあるんです。私が出家したとき、ありとあらゆる人がとやかく言ったんですよ。そのときに、先生にお会いしたら、「瀬戸内さん、当たり前だよな。日本の文学の流れは、みんな出家して、またものを書くんだよ。それが日本文学の伝統だもの。それを昭和の今、あなたがやったってだけで、僕はちつともびっくりしないよ」っておっしゃってくださった。もうそれがいちばん嬉しかったです。

暉峻 ほんとにね。動乱期の中世の連中は、西行でも、兼好でも、宗祇でも、文学に専念するには出家するよりしょうがなかったんですよ。江戸時代になると、西鶴も芭蕉も、こんどは三十前後で隠居してるんですよ。まあ出家みたいなもんだね、隠居は。隠居を届けると、冠婚葬祭、世間の付き合いは要らなくなるの。うるさくなった世間から離れて自分の世界をちゃんと持つには、出家がいちばん早い。

瀬戸内 私は五十一歳で髪を剃りました。それで、冠婚葬祭すべての義理から離れると思つたら、とんでもない、こんどは坊さんになつて葬式やらなきやいけない。(笑)

暉峻 そうか、檀徒の葬式には行かなきゃならん。私も寺育ちですからね。

瀬戸内 一生懸命あんちよこ見て、覚えていつてやるでしょ。そしたらね、「住職のお経は下手だなあ。これでうまく極楽に行けるか心配だなあ」なんて。(笑)

暉峻 僕は浄土真宗の寺の長男に生まれて、跡継ぎだったんです。僕はその寺から「出家」したんです。瀬戸内さんは、仏壇屋さんの生まれ。お互いに仏縁がありますな。今日は『源氏』の話でしたな。あなたの『源氏』は、円地(文子)さんが訳しているのとはまた違う。

瀬戸内 原作に限りなく忠実に訳して、やさしい日本語にしたつもりです。とりかかる前に、与謝野(晶子)さん、谷崎(潤一郎)さん、円地さんのと、現代語訳を三つとも拝見しました。円地さんのが、いちばん文章がご立派で、美しいです。

暉峻 文学的なんだ、あの人は。原文よりも、自分の文章を書きたいんだ。

瀬戸内 原文にない場面もいっぱいあるんですよ。色っぽいところはつい筆が躍るんですって。(笑) わざとそうしたって、ご自分で言つてらしたですからね。『源氏物語』を強姦したって。(笑)『源氏』は強姦と強姦未遂の連続だけど、その『源氏』を強姦しちゃう

んだからすごい。(笑)

暉峻 『源氏』の世界は、当時の仏教の目で見ると、邪淫（夫婦関係以外の性）と妄語（嘘つき）の渦まく世界ですね。

瀬戸内 昔も今も、女を口説くのは、嘘をつかなきゃ口説けませんよ。源氏は初めから終わりまで嘘ばかり。谷崎さんは、光源氏は女に嘘ばかり、都合のいいことばかり言って、次から次に騙すから嫌いだって。

暉峻 源信は、モラルがない時代だからこそ、『往生要集』を書いて、こんなに地獄があるぞと脅しをかけた。でもね、それじゃあどうして、モラルが確立していない平安時代に、騒動が起きないのか。不思議ですね。

瀬戸内 そうそう。平安朝は、保元の乱が起きるまでは、死刑が一度もなかったんですね。あの長い『源氏物語』でも、刀が抜かれるのは一回だけです。暗闇で、老女のさや当てに面白がって抜くだけでしょ。

暉峻 あの時代はモラルがない代わりに、「みやび」という階級的な美意識がありました。それが秩序を保ってるんですな。みっともないことはしないと。

瀬戸内 みっともないことは、悪なんです。真善美の中で、美しいということが最高とされた。源氏は美しいから、何をしてでも許されるんですね。

暉峻「みやび」が行きわたっているから、あれだけ色恋沙汰がありながら、今のよう
に騒動にならない。いいですねえ。

便利な言葉「前世の縁」

瀬戸内『源氏物語』は、光源氏が主人公で、光源氏の一生を書いたというふうに通
まれているけれども、源氏が関わった女のことを書いているんですね。

暉峻　そうです。紫式部はあらゆる種類の女性を書きたかったと思う。だから僕は、あ
なたの本の腰巻を考えました。「恋の主役はあなたです」と。

瀬戸内　いいですねえ。（笑）

暉峻　だって、瀬戸内さん、あなたがそうだったもの。（笑）

瀬戸内　あんなデレデレした態度で、のっぺりとした源氏が一人いたって、何も事件は
起こらないですよ。

暉峻『源氏物語絵巻』を見ると、源氏は運動不足で、中年太りですね。

瀬戸内　でも、朝から晩まで色事してるんですね。いいもの着てるけど、ろくなもの食
べてないんですよ。今は食生活がよすぎて、男がだめになってるんじゃないですか。

暉峻 私はこの頃は一日一食ですよ。

瀬戸内 そうですか。じゃあ、ますますお強くなつて。

暉峻 いやいや、もうだめですわ。

瀬戸内 いつからだめでしたか。

暉峻 もう十年ぐらい前かなあ。

瀬戸内 アハハハハハハ。

暉峻 何を言ってるんですか。

瀬戸内 だって、宇野千代さんは「私はこの頃は、男は好きになるけど、寝たいとは思いませんよ」っておっしゃってたんですよ。「じゃ、先生はいつから寝たいと思わなくなつたんですか」って伺ったら、「七十五歳」。(笑)

暉峻 いや、女の人は七十五歳でもいいよ。

瀬戸内 でも先生、すごいじゃないですか。

暉峻 「いまはただしょんべんだけの道具かな」というのが実感です。(笑)

瀬戸内 源氏は五十歳ぐらいで死んでますからね。その辛さは知らないんですよ。

暉峻 源氏にも味わってもらいたかったですな。

瀬戸内 それで源氏は、自分の周りの女が出家するたびに、私も出家したいのに、お前